

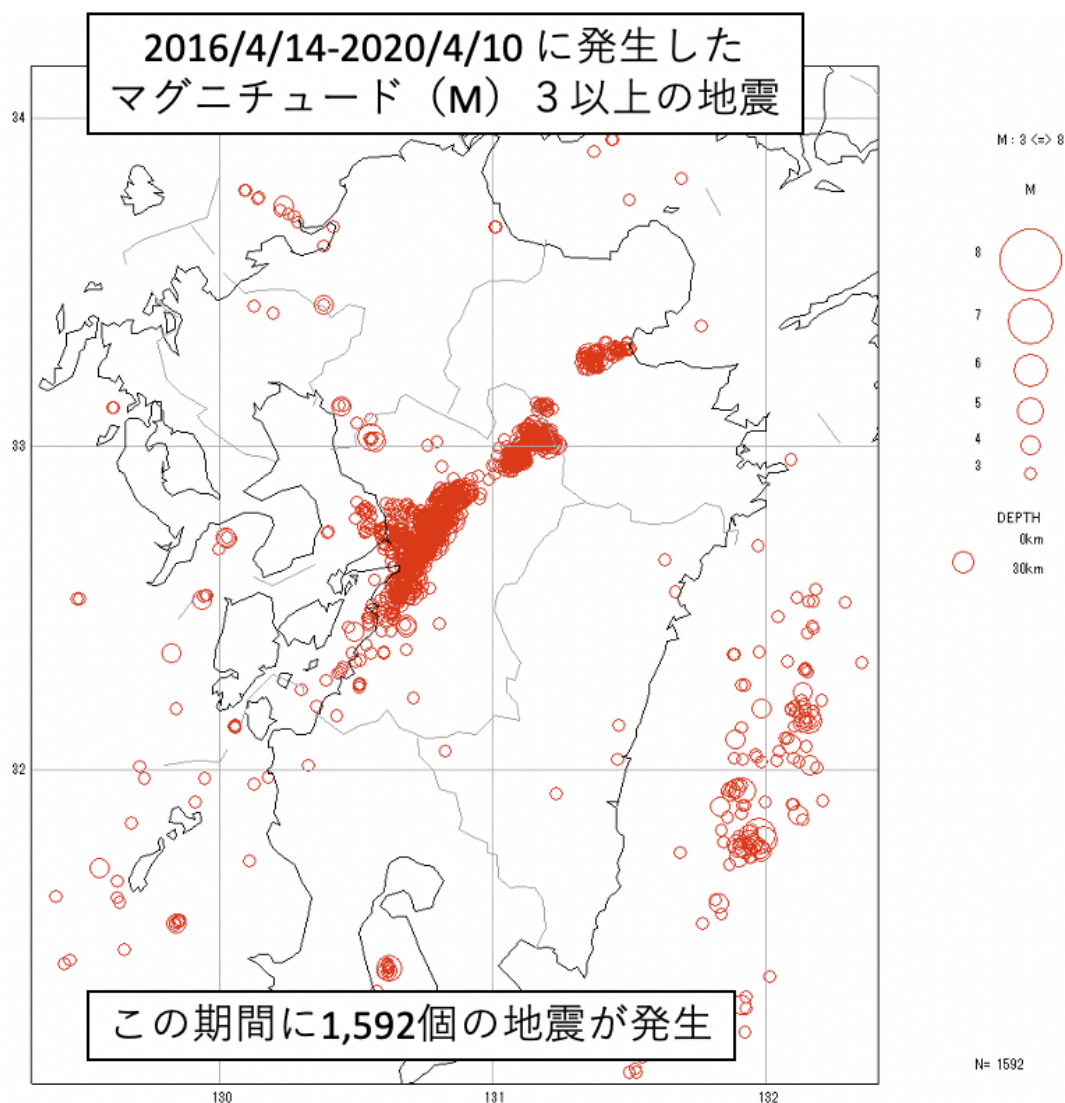
熊本地震から4年

4月14日で熊本地震から丸4年となります。しかし仮設住宅(家賃なし)は入居期限があるため、その後復興住宅(家賃あり)に移った方も多くいらっしゃいます。ただ、かなりの割合の方が生活は苦しいとお答えになっています。やはり家賃が大きな問題で、それまで農村や山間部で代々持ち家に暮らしていた方にとっては純粋に家賃が負担増となってしまいました。

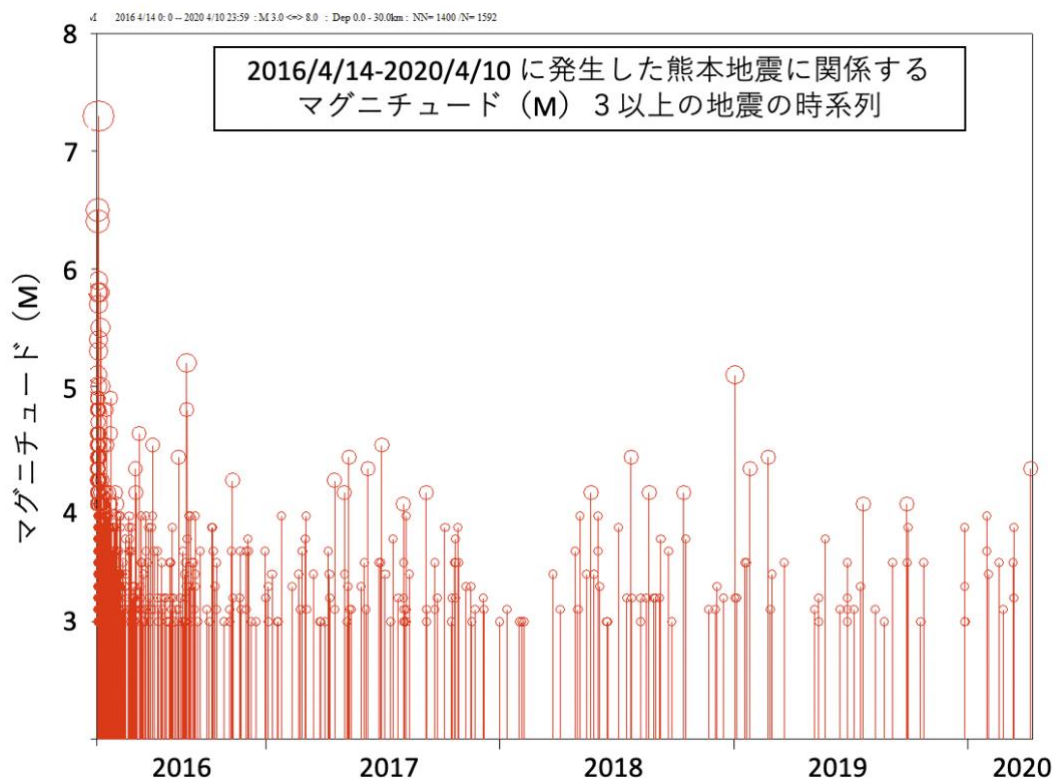
また仮設住宅を退去したおよそ1万7千世帯のうち、独居高齢者の方や所得の低い方はその半数ほどと見積もられており、地震災害は長期に渡り大きな影響を与える事がわかります。

幸い、熊本地震以降、内陸でマグニチュード7を超える地震は発生していませんが、熊本地震のような地震は全国どこでも発生する可能性があるとお考え下さるようお願い致します。

ただ、地震学的には熊本地震は終了していません。まだ数多くの余震が発生しています。



次の図は上記地震のうち、熊本地震に関係する範囲の地震を抽出し、横軸を時間(T)、縦軸をマグニチュード(M)とした MT 図と呼ばれるグラフです。余震は10年の単位で続くのです。



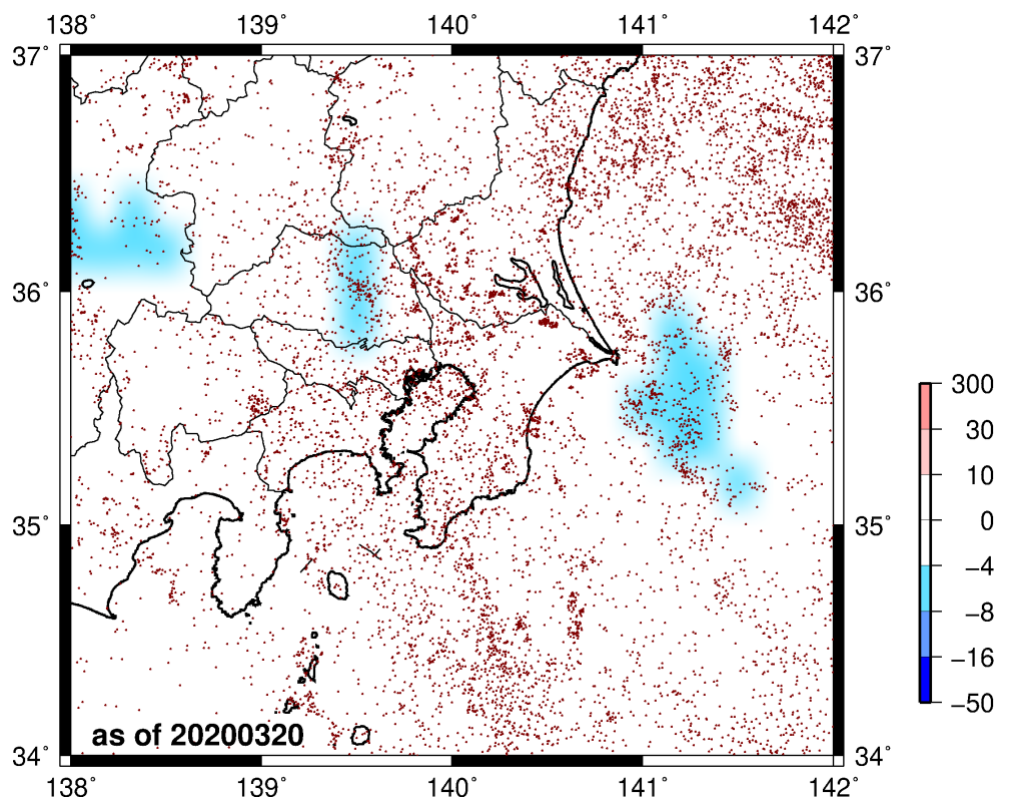
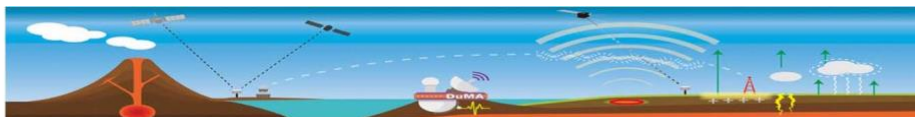
首都圏の地下天気図®

3月2日のニュースレターに引き続き、4月10日時点の首都圏に特化した地下天気図です。昨年12月以降、首都圏の地震活動が活発化しているようにも思える状況です。12日には茨城県南部でマグニチュード(M) 5.1の地震が発生し、最大震度4を観測しました。11日には千葉県東方沖(銚子沖)で M4.5、M3.3の地震が発生しました。4月10日にも茨城沖で M4.0、4月2日にはやはり千葉県東方沖(銚子沖)で M4.2といった具合です。

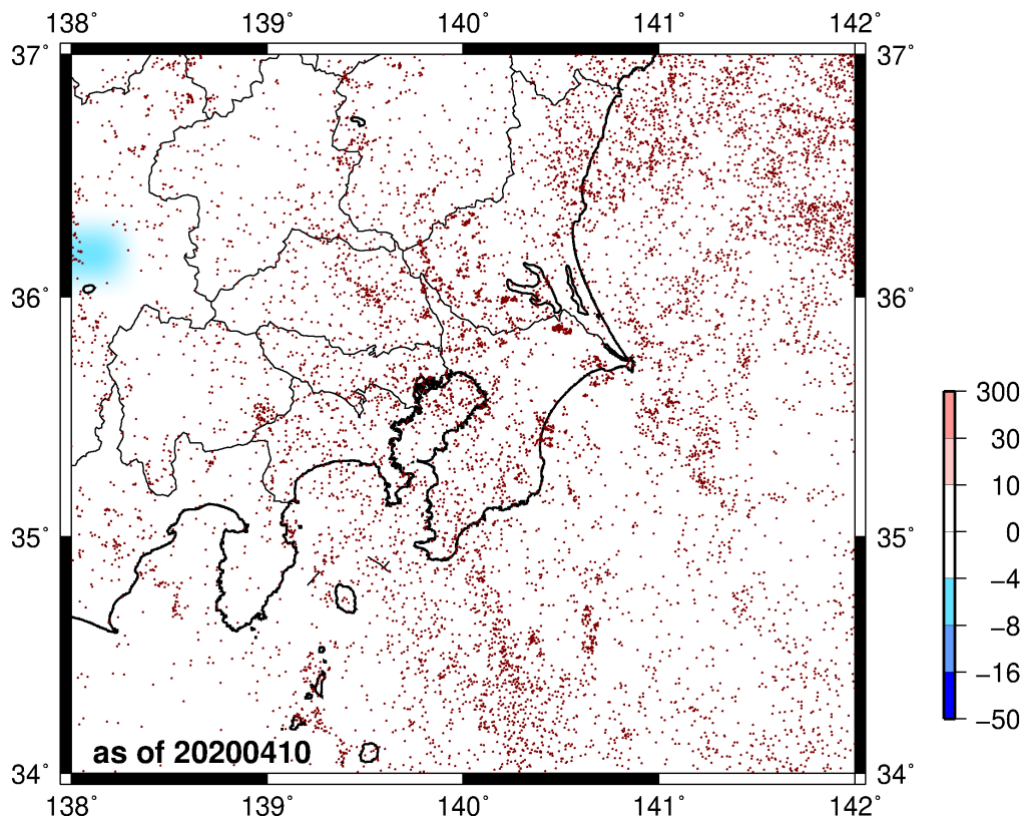
もともと首都圏は地震活動が活発な地域なので、これをすぐ異常と断定する事はできないのですが、地下天気図解析でも今年に入ってから、変動が大きな状態が続いており、4月10日の時点の解析では、これまで首都圏で続いていた地震活動静穏化の異常が解消したように見えるのです。

次のページに3月20日時点の M タイプ地下天気図と最新の4月10日時点の地下天気図をお示します。4月10日の段階では、ほとんど青い地震活動静穏化領域が見えなくなっている事がわかります。

現在の首都圏は地震学的にかなり不安定な状況と推察しています。



3月20日時点の地下天気図(Mタイプ)



4月10日時点の地下天気図(Mタイプ)



2020年4月13日時点のダッシュボード

4月6日時点の地下天気図の DuMA ダッシュボードにタイプミスや記載が不完全のところがありましたので、ここに最新版を掲載いたします。

更新日 2020.4.13

地下天気図® 解析	地域	警戒度 (異常の確度)	現状	静穏化・活発化期間		予測有効期間	備 考
				いつ頃から	いつ頃まで		
静穏化異常 継続中	北海道北部からサ ハリンにかけて (A)	High	現在強い静穏化が継続中 <u>少し静穏化が弱くなって きたとも考えられる</u>	2018年5月	継続中		サハリン北部では1995年に ネフチェゴルスク地震 (M7.6) が発生し、2000名近 くの死者が出た事がある。
静穏化異常 継続中	襟裳岬周辺 (I)	High	まだ異常の面積は小さい がLタイプ、Mタイプの両 方で静穏化出現	2019年3月	継続中		この地域は基本的には2003 年の十勝沖地震で大きなエネ ルギーは解放されたと考えら れているが、胆振東部地震の 発生などもあり、次の段階に 入った可能性がある
静穏化異常 終了	秋田県沖 (F)	Low	静穏化はすでに解消して いる	2019年8月	2019年10月	2020年10月頃	海域では地震発生数が少ない ので、精度が落ちると考えて いる。静穏化の期間が短い
静穏化異常 継続中	岩手・宮城沖 (B)	Medium	LタイプでもMタイプでも 静穏化が開始した	2019年11月	継続中		岩手県およびその沖合の異常 は一度は解消したが、再び出 現している事が判明
静穏化異常 継続中	能登半島周辺 (H)	Medium	LタイプでもMタイプでも 静穏化が開始した	2020年1月	継続中		<u>もう少し追跡する必要あり</u>
静穏化異常 解消か？	北関東から房総半 島沖 (C)	High	複数のパラメータによる 地下天気図解析で静穏化 が認められる	2019年8月	解消？	予測有効期間を首 都圏の重要性を鑑 み、1年ではなく 半年とすると 2020年9月頃まで	埼玉県周辺での静穏化異常は 3 1 1 以降では初めて より大きな地震を解析対象 としている東北地方海域の地 下天気図解析では異常がさら に強くなっている事が判明 <u>関東地方の地震活動が活発 化している可能性有</u>
静穏化異常 継続中	近畿地方 (和歌山県を中心 とし、四国東部を 含む地域) <u>一部中国地方でも 異常が出現</u> (D)	Medium	Mタイプで大きな静穏 化、Lタイプは18年の大 阪北部地震の影響がまだ 残っており、静穏化は明 瞭でない。	2019年2月	継続中		18年の大阪北部地震の影響 がまだ大きく、評価が難しい 日本全国を対象とした解析で も、Mタイプでより広域の異 常が出現
静穏化異常 継続中	紀伊半島沖の南海 トラフ海溝軸付近 (J)	Medium	Lタイプ、Mタイプで共通 の静穏化異常が出現中	2019年1月	継続中		地下天気図解析では顕著な異 常となっているが南海トラフ はもともと普段は地震活動が 低いため、解析に使用できる 地震数が少ない。そのため精 度が若干落ちると考えられる
静穏化異常 終了	九州北部および山 口県西方海域 (E)	Medium	静穏化の消長を繰り返し 現在解消している	2018年1月	2019年 5 月	2020年 5 月頃	海域では地震発生数が少ない ので、精度が若干落ちると考 えている

ちなみに表中に赤字で示したアルファベットは、DuMA ウェブサイトのダッシュボードの地図情報と対応しています。 <https://www.duma.co.jp/post/dumadashbord>